

愛は南から

国保一本松病院附属内海診療所 前所長 嶋本純也しまもと じゅんや 医師



平成26年11月から内海診療所に勤務されていた嶋本純也医師がこの春、横須賀市にある在日本アメリカ海軍病院に転勤されました。

嶋本先生は、地域医療にこそこれから求められる医療の本質があると考へ、人との関わりを大切にした診療を続けてこられました。地域の人に慕われ、惜しまれながら新天地に赴いた嶋本先生の益々のご活躍をお祈りいたします。

ここでは、嶋本先生からの感謝のメッセージを掲載します。

貴方の心を癒せるようなものは
何一つ 持ち合わせていない
僕だけど 掴まれた心は
逃げる術もなく 標無き
貴方への道を加速する

父にみる男は 雄大なもので
今の僕には 辿り着けず
母に受ける優しさは
見返り気にせずに
人を愛することだと 身に刻む

旅立ちの日を前に身支度を
していると十五の夏、男子校
だったせいもあるのか熱帯夜
に作った曲の紙が舞い落ちて
きた。

大変お世話になった愛南町の
皆さまに、人の生と死を扱
い患者さんの人生に寄り添う
総合医としてコメントを残し
たい。

人生を100年とすると生
きられる時間は約87万時間、
生まれて20歳までが約17万時
間で五分の一、70歳から100

歳まで29万時間で三分の一、
睡眠時間は14万時間で三分
の一、残りの時間約27万時間、
つまり約11,000日、30
年をあなたなら何に使うだ
ろう？

人は生まれた瞬間に人生の
中で一番辛い体験をしている。
我々は全員母親の子宮の中か
らこの世に生み出される。そ
の過程での身体的苦痛は人生
の中で最高点と言われている。
そしてその身体的な苦しみか
ら解放された瞬間、五感が解
放される。これは未知との遭
遇で、脳の中は不快指数でい
っぱいになる。そしてその不快
指数を埋めるために我々には
「何者でもない自分が必要と
してもらいたい」という欲求
が初めて生まれる。これは一
生覆すことのできない我々に
とって必要不可欠な欲求であ
る。誰かに必要としてもら
いたいという欲求を満たして
いかない限り我々の幸福感は満

たされない。その方法は一つ。
誰かのために自分の命を使っ
ていくことだ。命を使う。こ
れを使命という。この使命を
我々はフルに使い切り次世代
の子どもたちに引き継ぐ使命
がある。

私は地域医療を専門にする
自治医科大学を卒業後、かつ
て研修させてもらった内海診
療所が好きで帰って来た。自
分の短い人生での使命（地域
に医師が残るシステム作り？）
を熟考し、在日本アメリカ海
軍病院に行くことを決めた。

愛南町には地域医療だけで
なく、種々の問題があると思
われるが、個々人が自分の人
生に与えられた使命を全うす
れば必ず解決できることを信
じている。その過程には現代
の技術革新が重要な役割を担
うことだろう。私という存在
を作ってくれた愛南町の皆さ
まに心から深謝する。ありが
とうございました。